

令和3年10月 定例記者会見(報告)

1 日時 令和3年10月22日(金)13時～14時

2 会場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、読売新聞、河北新報、米澤新聞、毎日新聞、
NHK

<市>市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 奥羽新幹線と米沢－福島間トンネル整備のためには、どのような課題があると考えていますか。
- (2) 滑川大滝へのつり橋整備について、米沢市は何か支援策を考えていますか。
- (3) 衆院選で、米沢市としてはどういったことについて議論が深まることを期待していますか。
- (4) その他

5 内容

○秘書広報課長

これより令和3年度10月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに市長から発言がございます。

○市長

今月の定例記者会見のご質問は3件でした。

1点目は「奥羽新幹線と米沢－福島間トンネル整備のためには、どのような課題があると考えていますか」との質問でございます。

9月県議会でトンネル工事の調査費が2,200万円計上されました。JR東北支社も同じ額を負担するというので、県とJRが合意しました。トンネル新設の調査がいよいよ始まる

ということで、トンネル整備が前進したことは嬉しく思います。これから調査をする中で、米沢市がどう関わるのか具体的にはまだ分かりませんが、注視しなければならないと思います。現在の山形新幹線の速度が 130km/h 程度ですが、トンネル整備により 200km/h で運行できるようになれば、時間短縮や利便性向上になりますから、ビジネスや観光に良い影響が出ると思っています。これは米沢市だけでなく、置賜、山形県全体の経済発展につながると思っています。トンネル整備については、そういったことを市民の皆様にも周知し、地域発展の大きな取り組みであると認識いただく必要があると思っています。

コロナ禍で人流が滞っていますから、その対策も考えなければと思っています。県とも打ち合わせをしています。例えば、新幹線を利用してヒトとモノを運ぶ、いわゆる貨客混載を県ですでに取り組んでいます。最近では、舟形町の鮎などを新幹線で東京に運んで、都内で販売しているという実績もあります。米沢市でも、置賜地域の秋の味覚を新幹線で運び、場所はおそらく上野駅構内になると思いますが、販売する取組を 11 月中に行いたいと思います。現在、様々な団体と連携を進めています。

また、これからのことにはなりますが、200km/h の速度を出すということは、今よりも緩やかなカーブを想定してのことだと思います。現在のルートからどう変わるのか、地権者などの理解を得ることも必要だと思います。ルートが具体的に決まりましたら、協力できるところは協力したいと思います。

また、奥羽新幹線を国や JR 本社にこれまで要望してきました。実現するようであれば、費用負担などの課題が出てくると思います。金額がどうなるか現状では分かりませんが、今後の推移を見て判断したいと思います。

今の状況では具体的な計画がありませんが、想定される課題について、協力するものや財政負担などを考えておく必要があると思います。何よりも、住民の理解をいただけるように取り組まなければならないと思います。

2点目は「滑川大滝へのつり橋整備について、米沢市は何か支援策を考えていますか」との質問でございます。

滑川大橋については、以前から課題になっていました。今まで通っていたルートが旅館の敷地内ということもあり、手がつけれませんでした。県とも協議をしましたが、別の場所に新たに橋を取り付けると大きな費用がかかるという問題がありました。こういったことが理由で事業が進められませんでした。また、登山道は県の管轄ということもあり、調整ができませんでした。そういった中で今回、旅館がクラウドファンディングを立ち上げ、当初の見立てよりも多くの金額が集まったと聞いております。吊り橋補修については、このクラウドファンディングで対応できますから、米沢市としては補修事業に参入するのではなく、今後どうやって滑川大滝の魅力を多くの人に伝えられるかが課題だと思います。県との調整が必要ですが、案内板や看板などの支援については米沢市としてできると思います。

国との関わりについては、磐梯朝日国立公園満喫プロジェクトで、山形県では米沢市だけが指定されております。第1回会合では、新たなものを作るのではなく、今あるものを充実させてほしいという話が環境省からありました。滑川大橋についても、環境省はどのように対応していただけるか、連携を取りたいと思います。10月28日に東北地方環境事務所に参上します。そこで懇談したいと思います。

観光開発されていない、魅力ある自然が残っている東吾妻ですから、コロナが収束した後にもどのように活用できるか、魅力を発信したいと思います。

3点目は「衆院選で、米沢市としてはどういったことについて議論が深まることを期待していますか」との質問でございます。

今回の衆議院議員総選挙では、各党の公約を見るとコロナ対策がメインになっていると思います。政党間で考え方が異なると思いますが、コロナで国民が一番感じたことは、人命や医療体制のこと、国産のワクチン・治療薬開発が間に合わなかったことだと思います。こうした危機管理体制を見ると、日本の脆弱性が露呈したと思います。この反省に立って、国の方針を国民に示していただきたい。まずはそこを議論していただいて、今後、こういった感染症に対して国がどう対処するのか国民に示してほしいと思います。各自治体は国から交付金をいただきながらコロナ対策・経済対策を進めていますが、危機管理が整っているということが安心安全につながっていきます。経済対策で必要なことは、消費行動を回復させることです。各政党の中で色々な公約が出ていますが、その公約で本当に良いのか、それで国民が元気になれるのかと疑問に思っています。議論していただいて、国がやるべきことを示してほしいと思います。

コロナ禍においても一つ、都会はもちろん人が多く集まりますが、コロナ禍で一番多くの感染者を出したのは東京都です。東京一極集中の是正についてどう取り組んでいくのか議論していただきたいと思います。テレワークやワーケーション、交流人口・関係人口の拡大に向けて地方も努力しなければいけません、国としてどう考えるのか議論していただきたい。地方も、多くの方々に魅力を感じていただける戦略を立てて取り組んでいますから、地方のあり方についてももう少し踏み込んだ議論をしていただくことが、国家の成長にとっても重要ではないかと思っております。

色々と議論していただきたいことはありますが、今すぐに取り組んでいただきたいのは米価のことでございます。コロナ禍で令和2年度産米の在庫が相当数残っています。令和2年度の精算金が農家に支払われていない状況もあります。令和3年度産米がすでに市場に出ていますから、令和2年度産米が市場に出しまうと価格が暴落してしまいます。安くなることは、消費者には良いことだと思いますが、農業者の高齢化など課題が多くある中で、農業が危機的状況になってしまいます。農家の方の稲作離れにつながらないように、真剣に議論しなければいけない状況だと思います。

私からは以上であります。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上となります。これ以降の進行につきましては、幹事社にお渡しいたします。よろしくお願いいたします。

○記者

新幹線の整備とトンネルの整備は異なると思いますが、市長としては、新幹線も含めた整備推進ということでしょうか。

○市長

整備新幹線となると、現在工事中の路線がありますから、20～30年は無理であろうと思います。山形新幹線遅延・運休の主な原因は雪や大雨、動物との衝突など、米沢－福島間に集中しています。まずトンネルを通すことで、これらの影響が少なくなり、定時性の確保につながります。フル規格の新幹線整備も重要ですが、トンネル工事に着手していただくことが、山形新幹線の安全性・利便性・経済効果向上につながるだろうと期成同盟会でも話をしました。当面はトンネル整備に全力を挙げていきたいと思います。JRでもどういった将来像を考えているのか、後ほど明らかになると思いますから、そのときは県との連携をとる必要があると思います。まずは、トンネル工事が優先事項だと思います。

○記者

トンネル工事に対する米沢市の負担は求められそうですか。

○市長

今のところ負担の有無は話がありませんが、あるのではないかと考えています。できれば、負担が無いようお願いしたいですが、JRと県との関係、JRと国交省との関係もあると思いますから、今後の課題の一つだと思います。

○記者

トンネルや新ルートができた場合、並行在来線の問題があると思いますが、何かお考えのことはありますか。

○市長

在来線は残さなければならないと思っています。乗降客数は減少しているようですが、これからの観光に必要だと思います。また、産業遺産に認定されているスイッチバック遺構もありますから、残したいと思います。

○記者

その場合、トンネル契約以上に米沢市の負担が大きくなると思いますが、そういった負担をしてでも残さないといけないとお考えでしょうか。

○市長

どの程度の負担になるかによります。残したいならば自治体で運営するように、という話になるのか、そのあたりが全く見えないため、今はこれ以上のことは申し上げられません。

○記者

11月に上野で販売会をするとのことでしたが、詳細を教えてください。

○市長

詳細はまだ決まっていますが、道の駅米沢など関係団体と調整しています。場所は、上野駅構内だと思います。日時など具体的にはまだ決まっていますが、多くのお客様にお越しいただけるようにしなければならないと思っています。米沢以外の産物も販売したいと思っていますから、3市5町や置賜総合支庁とも連携を取りたいと思っています。

○記者

今時点で決まっていることは、置賜の特産物を販売するということでしょうか。

○市長

はい。また、11月中に開催するように調整しています。決まりましたら、お知らせします。

○記者

28日に東北地方環境事務所に行かれるとのことですが、意見交換ということでしょうか。

○市長

磐梯吾妻猪苗代地域の満喫プロジェクトについては、何をするのか具体的に決まっていない部分もあります。満喫プロジェクトの会長が東北地方環境事務所の事務局長ですから、今後の進め方も含めて、滑川大橋に国から支援ができないか話をしたいと思っています。

○記者

衆院選について、米価が喫緊の課題かと思いますが、具体的な要望は何かされていますか。

○市長

すでに JA から要望を取りまとめ、米沢市として国、国会議員、県議会議員、置賜総合支庁に要望をしました。米価については、以前は国で決めていましたが、現在は需要と供給のバランスで決まります。それは仕方がない部分もありますが、このまま稲作農家が減少するのは困るという声をもう一度国に伝えなければいけないと思います。米価の件については、すでに鈴木代議士にお話をさせていただきました。

○記者

鹿野道彦元代議士が亡くなりました。市長から思い出を含めて一言お願いします。

○市長

私が市議会議員になったときは中選挙区制で、この選挙区からは4人の代議士が輩出されておりました。鹿野先生には色々な願いをし、お手伝いをさせていただきました。当時は米沢選出の国会議員がいない時代でした。木村武雄先生がお亡くなりになってから、遠藤武彦先生が選出されるまで、米沢選出の国会議員がいませんでした。経済

界の若い人たちが鹿野先生を応援するという一方で、山形新幹線の件もあり、私もお手伝いをしたこともございました。その後は運輸委員長や農林水産大臣なども務められて、山形新幹線の件では大変お世話になりました。在来特急の新幹線構想は他にもありましたが、山形新幹線が構想に組み入れられたことは、鹿野先生のお力があったからだと思っております。その後も色々なお話をさせていただき、私自身も大変お世話になりました。訃報を聞いて、大変残念に思います。

○記者

県では職員に対して、コロナの経済対策として、感染防止対策を取りながら飲食店を積極的に利用するようにとの告知があったようですが、米沢市としては何かありますか。

○市長

本会議でも少しお話をしましたが、10月25日から、会食などについては感染予防をしながら、まずは職員が取り組んでほしいと指示をしました。米沢市として、まずは職員が取り組みますから、市民の皆様にも是非取り組んでほしいと思います。各コミュニティセンターで市長を囲む座談会を行っておりますが、公民館での飲み会などはいつできるのか、という声もあります。感染予防をしながら行ってくださいとお願いをしたいと思います。米沢市公式 SNS などでも発信をしたいと思います。YouTubeも活用しようと思いますが、お酒を飲み歩いてくださいということではなく、地域活性化のために街に出よう、と発信したいと思います。

○記者

ワクチンについて、接種予約が大詰めになっていると思いますが、接種したくてもできない、足りない、という人もいると思います。ワクチン供給などについて、国や県に要望事項はありますか。

○市長

米沢市に供給量が少ないことを、県には強く抗議しました。置賜で軽度のコロナ感染者が出た場合の宿泊施設が米沢市にできたわけですが、県でそういったことを実施しているにもかかわらず、なぜワクチンを米沢市に供給しないのかと担当部長に話をしました。そういった話をしまして、11月中には希望者分のワクチンを確保できる見通しが立ちました。

○秘書広報課長

これをもちまして令和3年度10月の定例記者会見を終了させていただきます。